

み教え調査隊



隊長 白辺 史郎



隊員 広井 学



隊員 有賀 冬子



特別隊員 ニャン太

# 天茶供養 2



今月は、先祖の安霊を祈るだけで天茶供養の本質ではないことを学びます。

### み教え調査隊とは

いつも耳にするけど、実はよく分からない——そんな「解脱用語」を調査し、教えの理解を深めるべく秘密裏に結成された特別調査チーム。毎回金剛さまの遺されたご指導を読み解き、時に取材に繰り出して、調査した結果を誌面にて報告する。

# 安霊 したら いろいろの？

有賀冬子●天茶供養って、ほんとに不思議な力があるのね。  
広井学●そっだね。僕は解脱三世で、前は色々あったみたいだけど、じいちゃん、ばあちゃん、親父もおふくろもたくさんご供養してきてくれたから今は幸せだよ。もう充分だから僕はしなくてもいいと思っただよぬ。  
白辺隊長●確かに、靈魂が安霊して今が幸せなら、必要無いように感じるかもしれないね。

広井●僕はそんなに欲深じゃないし、いつでも、食べたい時に天井が食べられれば幸せだよ。  
有賀●私はご供養を続けて、素敵な人と結婚できるなら、もっといっぱいやってあげたいわ。  
隊長●ははは。なるほど、幸せも人それぞれだね。実はそういう現世利己的なお恵みだけにおさまらないのが、金剛さまの遺された天茶供養の尊さでもあるんだよ。  
「我が身の精進、靈魂の安霊」って聞いたことあるかな？  
有賀●「靈魂の安霊、我が身の安心」は聞いたことあるけど。  
広井●「我が身の精進、靈魂の安霊」。ちよつとややこしいですね。  
隊長●「供養を行う自分の学び」という視点を持つと、もっともっと深い供養の尊さが実感できるよ。  
広井●え、「自分」？ 供養って





**有賀**●天茶供養の本質は、靈魂の安  
霊を祈るだけではないということか  
すか？

**広井**●ただで、先祖の安霊を願う天  
茶供養を始める人は多いよ。

**隊長**●確かにそうだね。そして天茶  
供養によって人生が劇的に好転した  
という体験をした人は金剛さまご在  
世当時から多い。それでは、入会し  
て、天茶供養によって靈魂の安霊が  
はかられる中で、人生が好転する背

景を考えてみようか。

病気や金銭的な問題、家族間の争  
い事などをきつかけとして入会した  
会員は、支部長や指導者から神先祖  
の尊さを教えられ、天茶供養をさせ  
ていただくようになります。

さらに学びを重ねていく過程で、  
御五法修業により、霊界において悩  
み苦しむ先祖の靈魂などの存在を知  
り、その安霊を願って、一心に天茶  
供養を行うようになります。

そうした中で、子孫の真心からの  
天茶供養によって、無縁だった靈魂  
が先祖の系列に連なることができる  
ようになるなど、靈魂は浄化し安  
へと導かれます。さらに尊い萬部供  
養などを受けることにより、いつそ  
うの安霊がはかられるのです。

浄化安霊することで、先祖の靈魂  
はより大きな力を持ち、直系の子孫  
を導くことができるようになります。

### 要求の供養はNG！

病気や事故など、自分に不都合  
なことが起きた時、「靈魂の安霊、  
我が身の安心」であるなら、つま  
くいかないのは、「どこかに安霊し  
ていない靈魂がいるからだ」など  
と受け取って、その靈魂を安霊さ  
せようと天茶供養をすることは間  
違いです。それは、要求の供養で、  
相手を思いやる供養の精神に反す  
るもので、最高道徳である「努力  
して要求せず」に反し、大自然の  
法則から外れるものです。

「悩みのあるうちは、自分に罪が  
ある」（金剛さまの思い出）第三  
巻153頁）とお言葉の通り、不都合  
なことが起きるのは切り替えな  
ければならない心の癖が自分の中  
にあるからです。それを切り替え  
られるのは自分しかないのです。

が感謝の生活だよ」（「恩愛の絆」57  
頁）

**有賀**●平凡な毎日こそ有り難いとい  
うことですね。

**隊長**●そうだね。平凡でも安定した  
生活ができるということは、先祖が  
霊界からしっかり支えてくださって  
いるという証なんだよ。先祖に対す  
る感謝は尽きないね。

**広井**●じゃあ、感謝の供養はずっと  
続くっていうことなんだね。

**隊長**●そうだよ。天茶供養の基本は、  
感謝なんだよ。それは祖霊供養札の  
中央上部に記されている「奉満唱」  
の三文字に集約されている。「新版  
解脱実修要典」では、「奉満唱」を  
次のように説明しているよ。

「満唱し奉る」と読みます。満  
唱の満は「満ちる」の意味で、充分に、  
満ちあふれるほど、限りなくという  
ことで、さらに満には湧き立つ喜び  
という意味がこめられています。

一方、その会員は解脱の教えに  
従って学ぶ中で、その生活や心の在  
り方が改善されます。

こうして安霊した先祖のご加護と  
み教えに従って自身の生活が整い、  
もの見方や考え方が改められてい  
く中で入会時の問題が解決し、入会  
以前に比べて生活は好転し、安定し  
た生活を送れるようになるのです。

**広井**●じいちゃんは解脱の教えで命  
が救われたと言っていたけど、僕は  
天茶供養をしていて特別いいことが  
起こったことはないなあ、いたって  
平凡な毎日だよ。

**隊長**●なるほどね、でも、こういう  
ご指導があるよ。

「感謝とはな、雨が漏らない家に住  
んで、四季折々に着るものを着るこ  
とができ、二度三度の食事ができた  
らこんな幸せはないとわかることな  
んだよ。有難い、有難いで暮らすの

したがって「ご先祖様に、感謝の  
心が満ちあふれるままに、限りなく  
お唱えさせていただきませう」という  
意味です。（同書133頁）

**有賀**●感謝の心が満ち溢れるまま  
に、湧き立つ喜びをお唱えすること  
ができたら、先祖はお喜びくださる  
わね。

**隊長**●真心からの感謝は先祖の喜び  
であり、供養する私たちにとって感  
謝の再確認でもあるんだ。



朝夕、当たり前前の生活が平穩無事にできることを再確認し、そのことに感謝して真心からの供養を捧げる。そうした供養を日々重ねる中で、感謝の心は磨かれ満たされていきます。感謝の心が磨かれると、自分自身がいかにも多くの恩恵や善意によって支えられているかがさらに理解され、多くの気づきを得ることができず。

かつて「供養」とは「共に養つこと」と説かれたことがあります。わが子をかかわいがることによって、親の心が満たされるように、供養をすることで、供養する人の心も養われるのです。

先祖代々の精神伝統を切り替えてよりよい精神を作り上げるためには、日常生活の中での行動を改めて、自分の心の悪癖を改める精進を続ける以外ありませんが、そうした精進を続ける根気もやる気も、日々、重ねる天茶供養の中で満たされた感

を困らせている人が、自分の家は寺だから先祖は成仏していると言っているので、金剛さまは「霊界から自分の姿を見て、自分が先祖だったら成仏できるか」と聞かれた。するとその人はしばらく考えた後、「先祖は成仏しておりません」と涙ながらに響へひれ伏したそつだ。

その姿を見た金剛さまは、「分かればいいんだよ。分かった時に、先祖は許してください」と申されたというよ。

**有賀**●霊界の先祖にすれば、私たちの生活を見ていつも心配しているかもしれないね。

**隊長**●そうなんだ。だから先祖から見ても安心してもらえるような自分たちになることは、先祖への供養でもあるんだ。

それでは、どのような生活を送っていけば、そのような自分になれるか、次の頁から考えてみようか。

謝の心から生まれるのです。

つまり心直しの原動力となる「感謝のエネルギー」は、感謝の天茶供養から頂けるものなのです。

また先祖に支えられている自覚と感謝の心があれば、困難なことが起きてても、これは「もっと頑張つて立派に成長して欲しい」という先祖からのメッセージとポジティブに受け取ることができるはずですよ。

### 先祖の目線

**有賀**●感謝の供養で、先祖だけでなく自分たちも救われていくなんて、天茶供養する時間って良いですね。

**広井**●安霊しているから天茶供養をしないというのは、もったいないことだなあ。

**隊長**●私たちは、安霊、安霊って簡単に言っけれども、霊界のことはよく分からないことだよな。

広井君は、先祖の靈魂は安霊して

## 天茶供養の種類

本会の天茶供養には、供養札並びに供養塔での用法の他に、天茶による「お給仕」「撒き供養」があります。

まず天茶のお給仕ですが、基本的に祖先靈を始めとした諸靈に対して、コップなどに入れた天茶を感謝の真心と共に捧げさせていただく供養です。手軽に行えることから、一般の方にもお勧めできる供養でもあります。

場合によっては、御五法修業で示された諸靈から「天茶のお給仕」を求められた際に、指定の場所へ約束した期間お給仕をし、そこで靈魂が受けられることなどもあります。

次に天茶の撒き供養は、土地または川や海で行い、そこに鎮まるべき魂の靈魂に対し、天茶を捧げる供養です。住んでいる土地の撒き供養の



いると思っっているかい？

**広井**●もちろんです。解脱三世ですし、天茶供養も毎日してますから。

**隊長**●そうか。でも霊界の先祖が今の広井君を見て、どう思っつか。

**広井**●……心配かも。

**隊長**●霊界の先祖から自分を見ると、この視点は大切なんだ。

金剛さまご在世中、大酒飲みで妻

場合は、「住まわせていただいている感謝」の気持ちで供養を行うことが基本です。他にも古戦場跡地などでの公的な供養もあり、その場に埋もれている靈魂を鎮め、安霊へと導くための撒き供養を行います。

撒き供養の手順は、始めに少量の天茶を御神前に供え、供養を行うご挨拶をした後に、その天茶をあらかじめバケツなどに用意しておいた天茶の中に加えてから行います。

最後に、これらの天茶の供養は、諸事情で自宅に帰れないなどの場合であっても、神仏や先祖にお言葉がけをしてお許しを頂けば、その所で「お給仕」や「撒き供養」を行うことができます。離れた場所からでも、きちんと礼節を通し、真心から行えば、靈魂に届くのがこの天茶供養です。

※詳しくは、『新版 解脱実修要典』をご参照ください。

「供養の心で生活しよう」



ご先祖さまがご覧になって、安心していただける私たちになるには、具体的にどのようなことを心がけていけばよいのでしょうか。金剛さまは、次のように申されています。

「物を活かし心を活かし人を活かす感謝報恩の生活が送れるようになれば本当に幸せになれるんだよ。そういう行ないが供養なんだ。天茶の供養も大事だが、解脱してすべてを活かし、真心を捧げて人を世を救っ

ていくことが本当の供養なんだよ」  
〔恩愛の絆』75頁）

私たちが日々与えられるさまざまなのは、すべて神様からの授かりものです。また、すべてのものには、そのものにしかない特性があります。

たとえば、料理に使われる食材は、私たちの生命を保つために授けられた「神の恵み」です。それぞれ尊い特性を持つ食材に対して常に「感謝」の気持ちをもって、その栄養や味を十分に活かして調和させ、美味しい料理をつくることは、「供養」の心の実践です。その料理は多くの人に幸せや喜びを与えるものとなります。

また、「人を活かす」ことに関して、金剛さまは「埋もれている人を世に出すことが無縁の供養だよ。力はあるのにそれなりの働きができない人を世に出し、十分に活動してもらえようようにするところに供養の精神が

ある」〔恩愛の絆』17頁）このお言葉を遺されています。

「適材適所」という言葉があります。仕事で例えるなら、デスクワークより現場作業に汗を流すことが向いている人もいれば、肉体労働は苦手でもパソコンを用いる事務仕事でなら力を発揮できる人もいます。たとえ自分の苦手なことであっても真剣に取り組むことが仕事の基本ではありますが、せっかく持っている能力を活かせない場所にいることは「無縁」の状態といえます。

そうした人の持つ能力を見極めて、より発揮できる仕事や持ち場を与えることは、無縁を有縁にする「供養」の実践です。さらに、その人がそこにおいてより良い仕事をするならば、それはその仕事に関わる人たちにとっても大きなプラスであり、社会貢献となります。

また、私たち自身の生命は金剛さまが「無量の恩の結晶」と申されたように、無数の先祖の勞苦と多くの犠牲の上に成り立ったものであり、さまざまなお恩によって支えられているものです。このように尊い「自分」を粗末にすることは、大きな無縁をつくることです。「私」という存在の有り難さをよく知って、与えられた立場や環境の中で世のため人のために精いっぱい自身を活かしていくことは、先祖の最も喜ばれることであり、「供養」です。

さらに、御五法修業を通じて、先祖代々自分に至るまでの、自己中心的なものの方、考え方の間違いを自覚し、解脱のみ教えに合わせてそれを切り替え、繰り返さないように人格を向上させていくことも、先祖の心を安心に導く「供養」です。自身が「心直し」をすることが先祖の喜びとなる——「我が身の精進、靈

魂の安靈」なのです。

自分に関わるすべての人や物事を神から与えられた尊い恵みとして感謝で受け取り、その価値を十分に活かしていくことは「供養」の心の実践であり、幸せへとつながる最良の報恩行です。

真心からの天茶供養を通して「感謝の心」を磨き上げ、実生活の中で「すべてを活かす」供養の心を発揮してみてください。



**広井** ● いや〜今回の調査も、とても勉強になったなあ。

**有賀** ● 振り返ってみると、これまでいろんなテーマをやってきたわね。

**広井** ● 「馬鹿と貧乏と死の稽古」に始まって、「自己認識・自己反省」「義務先行」「徳積み」「絶対感謝」……どれも初めは難しいばかりでよく分からないと思っただけ、意味が分かると、日常生活で心がけていける勉強だって分かったよ。

**有賀** ● 私も、この調査のお蔭で金剛さまの遺された書物を何度もひも解くようになって、解脱の教えにもっと興味を持てるようになったわ。

**隊長** ● まだまだ、僕らの仕事は終わっていないぞ。これからも皆さんの抱いている、み教えの素朴な疑問を調査していこうじゃないか。

**広井・有賀** ● おーっ！

**ニヤン太** ● ニヤーツー！

——み教え調査隊の奮闘は続く。